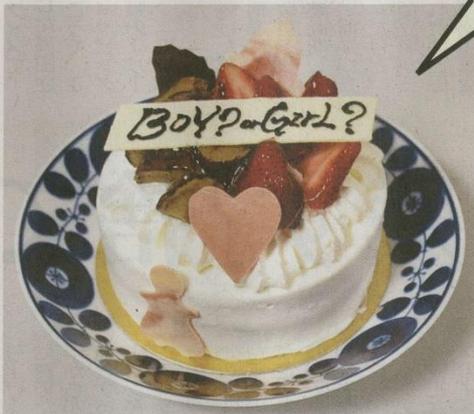


# 赤ちゃんの性別 ケーキでシェア

女の子？

男の子？



## 広まる「ジェンダー・リビール」

①記者がケーキ店に注文したケーキ。男の子と伝えるために果を入れてもらった。田崎春菜撮影  
②赤ちゃんが女の子の場合は中がイチゴが人気。Cake.jp提供

## 喜びも コロナ禍の不安も 家族の絆に

**米国発祥 色で表現**

赤ちゃんの性別を伝えるイベントは「ジェンダー・リビール」と呼ばれる。英語で「性を明らかにする」という意味で、2008年ごろに米国の女性がパーティーでケーキを使って赤ちゃんの性別をお披露目する様子をインターネットに投稿したのが最初とされる。「ジェンダー・リビール・ケーキ」の他、割った風船があるわけではない。

広島県の妊娠9カ月の女性



記者が注文したケーキを切る夫  
—福岡市で10月9日、田崎春菜撮影

赤ちゃんの性別を伝えるイベントは「ジェンダー・リビール」と呼ばれる。英語で「性を明らかにする」という意味で、2008年ごろに米国の女性がパーティーでケーキを使って赤ちゃんの性別をお披露目する様子をインターネットに投稿したのが最初とされる。「ジェンダー・リビール・ケーキ」の他、割った風船があるわけではない。

広島県の妊娠9カ月の女性

「元気に育ってきてね」。「NS上には手作りしたジェンダー・リビール・ケーキの写真を添えた妊婦たちの投稿があふれる。ケーキの中は男の子ならばブルーベリーなどを使った書系、女の子ならばイチゴなどが多いが、決まりがあるわけではない。」

広島県の妊娠9カ月の女性

出産を控えた女性たちの間で、おなかの赤ちゃんが男の子か女の子か、ケーキの断面の色などで家族や友人たちに伝える米国発祥のイベントが、日本でも人気を集めつつある。今年には新型コロナウイルスの影響で家族の病院への付き添いや出産時の立ち会いなども制限され、多くの妊婦が1人で不安を抱えている。そうした中、赤ちゃんの成長を家族と一緒に祝い、自宅で喜びを分かち合う催しの一つとして、SNS、ソーシャル・ネットワーキング・サービスなどを通して広まっている。

（28）は、バウムクーヘンの中にフラックベリーなどを詰め、生クリームでコーティングしたケーキを作って、夫に赤ちゃんが男の子だと伝えたい。「コロナの影響で主人と産婦人科と一緒に（赤ちゃんの）エコーを見るのができずに切ない思いをしたと振り返る女性は、ジェンダー・リビールが「子どもを積極的に話題にするきっかけになった」と語る。

ジェンダー・リビール・ケーキを販売する店も出てきた。宅配ケーキサイトを運営する「Cake.jp」（東京）がベビー用品メーカーとの共同企画で5月から売り始めたところ、「立ち会い出産もできないのでさやかでもお祝いしたい」といった声とともに全国から注文が寄せられていくという。福岡県久留米市のオーダーケーキ店「アルテレゴキュイジーヌ」は、断面に「IT'S A BOY（男の子です）」などと文字をあしらったケーキがSNSなどで話題になり、予約が殺到したため年内の注文を停止した。

福岡市内の自宅近くのケーキ店に、秋の味覚の果を入れたケーキを注文し、夫には、ケーキの中が栗ならば男の子、イチゴならば女の子と伝えてからナイフを入れた。その後、2人でケーキをほおぼりながら子どもの名前や母親学級のことを話題にし、出産前の不安を分かち合えた気がした。

岡山大学大学院保健学研究科の中塚幹也教授らが6～8月に広島、岡山県の産科2施設に来院した妊婦400人を対象とした調査では、約4割が新型コロナウイルスの感染拡大で「精神的に不安定になったと感じる」と回答し、6割以上の妊婦が「自身や胎児への感染が不安と答えた」。また「軽度以上のうつ不安症と判断される妊婦が42%に上り、これまでの調査と比較してもコロナの影響でうつ症状の妊婦が増えている可能性が高いという。

中塚教授は「体調不良や子育てへの不安に新型コロナウイルスが加わり、妊婦の不安が大きくなっている」と指摘。ジェンダー・リビールのようなイベントについて「トランスジェンダー（生物学的な性と自認する性が異なる人）の視点から考えると、性別を色で表現することなどが気になる人もいるかもしれないが、コロナ禍で不安を抱える妊婦の気持ちに明るく影響が出て家族の絆を深める機会につながるのならばいいのではないかと話す。」

【田崎春菜】